

2026 年度入試：実施状況及び出題の意図と採点基準について

【2026 年度入試 実施状況】

			秋入試			春入試		
			博士前期	修士	博士後期	博士前期	修士	博士後期
実施 科 目	一 般	小論文	小論文	小論文				
		外国語	外国語	外国語				
	留学生					作文	作文	小論文
	社会人							

【入試問題の出題の意図と採点基準】

1. 博士前期課程（一般・社会人 入学試験）小論文【秋入試】

【問題①】 出題の意図

地域政策学あるいは地域経済政策の領域で修士論文を作成するにあたり、学部で学んだ専門知識の習得状況と文章作成能力と事象を捉える視点及び価値判断基準並びに時事問題への関心の深さを評価するために、地域の持続可能な経済発展を可能にするツーリズムとはどうあるべきかを問う内容にした。特に、地域の持続可能な経済発展という目標に際して、多様なアクターあるいは利害関係者たちが合意形成に至る道のりを、論理的に展開できているか否かが解答のポイントとなる。

【問題①】 採点基準

地域政策学研究科あるいは地域経済政策に関する学部での基礎的知識の習得状況(40%)、問題文の主旨を理解し、論理的な文書を作成する能力(40%)、各自の専門領域において培われた物事の見方や価値判断基準の妥当性(10%)、時事問題への関心の深さ(10%)を採点基準としている。

【問題②】 出題の意図

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」は、深刻な少子化に直面する日本、韓国、中国など多くの国々の重要な政策課題の1つである。日本で、2007年にその「憲章」が制定されたという事実が初耳であったとしても、憲章を制定するほど深刻かつ重要な政策課題であるというヒントをもとに、「両立しにくい現実」について、受験者自身の体験や見聞をもとに叙述しうると思われる。対応や政策についても、普段からニュースなどで聞き知っているほかに、受験者の生活体験などから、具体的な方策や、その実効性（の限界）、さらには女性優遇という弊害も起こりうるだろうことなど、多様な回答がありうると予想される。

【問題②】 採点基準

「仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）」の背景と政策実態など、一般社会人が常識として知っていることを押さえていけば、スタートとなる基礎点（50点）が確保され、これに加えて、育児・介護休暇や、その男性への取得奨励といった政策実態、あるいは、その限界・弊害といったことなどまで展開されていけば、応分の加点を積み上げていく。この分野について熟知していて、概容を詳細まで書き込んでいけば、最高得点 90～100 点を想定した。

2. 博士前期課程（一般 入学試験）外国語（英語）【秋入試】

◆出題の意図

専門的な英文を正確に読解する力を問うものである。本学では地域政策学を主要な研究分野としているため、本年度は、それに関連する住まいと都市を題材とした二つの英文を出題した。

◆採点基準

- ① 英文の基本的な主張を正しく捉え、自然で分かりやすい日本語に訳せていることを、合格の基本的な基準とした。
- ② そのうえで、文脈に即して専門用語を適切に使用している場合は、加点の対象とした。

3. 博士前期課程（留学生 入学試験）作文（日本語）【春入試】

◆出題の意図

地域経済政策に係る課題について、日本語による基礎的な文章作成能力を判定する。日本語の表現能力とともに行政、企業、市民による官民連携事業の理解の深さを問う。その際、以下の三つの項目が意識されていることが地域の課題を考える上で重要であると考えている。

- ① 「お互いに良い結果になる関係（Win - Win）」が書かれているか。

日本人もしくは外国人だけが一方的に助けられるのではなく、外国人住民が介在することで「双方にどのような新しい価値や良い結果が生まれるか」を考えているか。

- ② 「長く続けられる仕組み（持続可能性）」が示されているか。

一回きりの行事（イベント）や手伝い（ボランティア）などではなく、日常の仕組み（小さな規則や協力のやり方）として長く続けられる方法が提案されているか。

- ③ 「多角的な視点」が具体的にくわしく書かれているか。

「職場」「生活の場」「学校」「近所付き合い」「特定の産業（観光、介護など）」のように、どこでのできごとかを明確にして具体的に書けているか。

◆採点基準

- ① 日本語能力：日本語能力試験 N2 レベル程度の言葉や文法を正しく使えているか。
- ② 論理構成：「自分の意見」、「その理由（根拠）」、「まとめ（結論）」がつながっているか。
- ③ 課題理解：人口減少や地域経済の衰退といった、現在の日本の地域がおかれている状況や問題を正しく理解できているか。
- ④ 具体性：提案した「仕組み・規則・やり方」が、実際の現場で実行できるくらい具体的に書けているか。
- ⑤ 独自性：自分の体験や知識を生かした、あなたならではの提案や新しい視点が含まれているか。

4. 修士課程（一般・社会人 入学試験）小論文【秋入試】

【問題①】◆出題全体の意図

時事問題の一つとして、また、多くの企業が取り組むようになった SDGs だが、どの程度理解しているか、その幅と深さを、また、受験者が「経営革新専攻」であるので、SDGs の意味や意義、また SDGs に取り組む企業にどのような成果が期待できるか、また、課題は何かなどを理論的にまとめる力があるかを問う。

【問題①】◆採点基準

- ① 用語としての SDGs について、基礎的な内容を理解しているか、程度を確認。(基礎点)
- ② SDGs を企業が採用することの意味や意義を理解しているか。(加点)
- ③ 経営革新の受験生であるので、企業にどのようなメリット、デメリットがあるかについて言及しているか。(加点)
- ④ イノベーションや CSR との関連などにも言及があればさらに加点。
- ⑤ 以上が論理的に整理され、日本語の文章として執筆する能力があるか。(基礎点)

【問題②】◆出題全体の意図

大学院の研究には、自らが研究の問いを立て、適切な専門用語を用いて論を展開する能力が必要とされる。とりわけ「経営革新専攻」においては、経営学に関する一定の専門知識と思考力が要求される。

設問では、我が国の産業や企業の課題である生産性の低さについて、企業と政策支援の両視点から検討できるかどうかを問うている。生産性の定義や測定する意義、マネジメントとの関連性など、どの程度の知識と洞察力があるのか、それを論理的にきちんと説明できるのかについての能力を評価することを目的としている。さらに、企業の立場（ミクロ）だけでなく、政策の立場（マクロ）からも考察できるかについても評価する。

【問題②】◆採点基準

以下の3点の観点から、総合的に判断する。

- ① 経営学領域の基礎的能力と洞察力を修得しているか（生産性の定義や測定する意義、マネジメントとの関連性など）。
- ② 問題内容をきちんと把握して、論理的にかつ適切な専門用語を駆使して説得的な主張がなされているか。
- ③ 企業の立場（ミクロ）だけでなく、政策の立場（マクロ）からも考察できているか。

5. 修士課程（一般 入学試験）外国語（英語）【秋入試】

◆出題全体の意図

英文の基礎的な理解力と日本語への変換能力を測ることが出題の意図である。出題は異文化論で著名なホフステッドの文化測定次元論の解説部分である。仮に英文理解が不足していても、この著名な学説の概要を知っていれば、およその訳文は作成可能である。

◆採点基準

詳細な訳文の正確さではなく、文面の概要が訳出できていれば7割程度の得点を与える採点基準である。あとは訳文の正確さ、詳細さにより加点される。

6. 修士課程（留学生 入学試験）作文（日本語）【春入試】

◆出題全体の意図

出題全体の意図は、日本語による基礎的な文章作成能力を判定することにある。そのため、特定の専門知識の有無に過度に依存せず、かつ受験生が独自の推論や考察を展開できることを要件として、トピックを検討した。その結果、受験生が日常的に触れている「生成AI」をトピックとして選定した。企業における生成AIの活用がもたらす「新たな経営課題」については、現在進行中の出来事であるため、推論・考察する余地が多分に残されている。

◆採点基準

第 1 に、日本語による基礎的な文章作成ができているかという点である。文法が守られているか、適切な語彙が選択されているか、正確な日本語が記述できているかを評価する。第 2 に、推論・考察が適切になされているかという点である。「新たな経営課題」に対して、どのような推論を行い、考察を深めているのか、その「論理性」を評価する。第 3 に、推論・考察内容が優れているかという点である。導き出された内容が、経営学的に妥当であるか、独自性があるかを評価する。この基準については、加点要素となる。

7. 博士後期課程（一般・留学生 入学試験）小論文【春入試】

◆出題全体の意図

【問題①】◆出題全体の意図

地域政策学あるいは地域経済政策の領域で博士論文を作成するにあたり、学部及び修士課程もしくは博士前期課程で学んだ専門知識の理解とそれぞれの専門領域において培った物事を見る視点及び時事問題への関心と共に日本語による論理的な文章作成能力を評価するため、ここでは、地方公共団体による市民ホールの建設過程を例にとり、公共工事の意思決定のあり方について問う問題を出した。出題の意図は、賛成か反対かの立場にかかわらず、利害関係者間での望ましい合意形成のあり方とはどのようなものか、それはどうあるべきかを、説得力のある文章で表現できているかを問う。

【問題①】◆採点基準

問題文の主旨の理解と解答に際しての論理構成といった文章読解能力と文章作成能力(30%)を採点基準に入れている。もちろん、それぞれ学んできた専門領域における学部及び修士課程もしくは博士前期課程での専門知識の習得状況(50%)や時事問題への関心の深さ(10%)や物事を見る視点及び価値判断(10%)といった一般入試や社会人入試における採点項目も考慮に入れている。

【問題②】◆出題全体の意図

「日本はじめアジア諸国」の、「政治・経済」における女性管理職比率が低い実態は、周知の事実と考え、その「背景・原因」と、対応施策について「官民双方」における対応・施策（政策）を、志願者の見聞・体験や種々の情報等をもとに論じやすいよう、いわば誘導的な出題と考えている。

【問題②】◆採点基準

「地域経済」とはいえ、日本とアジア諸国に共通する論点でもあり、社会・経済の実態への関心があれば、一定の知識・情報を持ち合わせているものと考えられるため、実態とその「背景・原因」が論理的に述べてあれば、基礎点 60 点ラインに達しているとして、あとは、具体的な対応・施策（政策）に関しては、育児・介護休暇の取得奨励（特に男性への）や、アジア域内の共通性や相互比較のほか、国際的な論調など、志願者のアカデミック・バックグラウンドに根差した内容などがあれば、適宜、加点することを想定している。